京城日報
九日夕刊(朝夕刊併せて八頁)
本紙定價 △一部金三錢五厘 △一ヶ月金七十五錢 △郵稅一ヶ月金十五錢
廣告料金 △五號活字十五字詰一行 △一行金一圓
發行兼編輯人 印刷人 小川三之助
京城太平町通一丁目 發行所 京城日報社 電話 振替貯金口座京城

日米宣言反響

▲既往の誤解を一掃す 北支那デーリー、ニュース紙評論

北支那デーリー、ニュース紙は曰く日米協約は眞に歡迎すべきものなり日本の支那に於ける特殊の地位及び米國の支那の幸福に關する特別の關係に就て日米兩國が互に相承認したるは既往の誤解を一掃するに足る日本の支那に於ける特殊の地位を無視するは固より誤りなり又此協約は米國が寺内伯の日支親善政策を確信したる證左と見て可ならん更に支那の日本に對する猜疑を除き近年來兩國小衝突の原因たりし禍根を除くに於て大に効力あるを疑はずと(北京特電)

▲現狀は依然たらん チャイナ、プレス紙評論

チャイナ、プレス紙は其社說に於て論じて曰く米國は一方に支那の主權を保護すべき保障を日本より收めて他方日本が極東外に支那に於て特殊の利害を有することを承認したるものなることは明白なり日本は多年熱誠奮勵事に膺り此の特殊の地位を贏ち得て又能く之を維持し或は之を維持する爲めに戰ひたり今回日本は一般の承認を得たればとて支那現狀が特に變化を起すが如きことは斷じて之れ有らざるべし日本が此の特殊の地位に上れるものは多くは支那政府の罪なり日本は支那が改良し或は廓清して特質、目的、能力を有する政府及び國民と成るに至る迄は此の地位を保有して斷じて之を棄てざるべし(北京特電)

○露運命の岐るゝ所

露都駐在某國外交官は語つて曰く露國軍事代表者にして若し巴里會議に於て露國は最早之以上戰ふ力無しと言明しなば列國は最後の二斷案として(一)不名譽なる平和の張本人として露國を痛烈に膺懲して戰爭を中止するか(二)東部戰線に於て露國に代るべき軍隊を見出すかの二途に出でざる可からず、露國の運命如何は一に懸りて代表者の言にありとし巴里會議に於ける露國代表者の使命の容易ならざるを認めアレクセーフ總參謀長は之が軍事代表者たるの依頼を受け大本營に赴きたるが若し露軍の現狀到底恢復す可からずば余は此の任を辭す可しと將軍は語れりと(哈爾賓特電)

○鎭壓當然の手段

首相ケレンスキー氏は露國代行議會に於て勞兵會が露都の施行命令權を橫奪せんと企畫せる事に說き及びて曰く勞兵會は職工に兵器を授與したる爲め政府は露都の一部謀叛せるものと見做し已むを得ず鎭壓の手段を執りたりと述べ來るや左黨は騷然罵聲を放つて妨害を試みケ氏は左黨席を振向きて聲を勵して政府は國家の名譽安全を防禦する能はざるに至るが如きことあらば自ら倒れんのみと云へり(露都電報)

○伊軍敗北 ▲敵新聞紙狂喜

獨墺諸新聞は對伊太利戰捷の記事にて充され居れり、ナショナルツアイツングは曰く、これ伊太利のセダン(奈翁の敗衂せし所なり)なりロカールアンツアイゲルは曰く、斯の如き大集團を以ての降伏は世界史上に於ける初めての事實なり又獨逸チタークゲユツアイツングは曰く此の敗北は伊太利が吾人に背ける天罰なり更にベルリーネルターゲブラツトは曰く如何に從來吾人の成功は大なりしにせよ如斯迅速にして根本的のものは未だ之れを見ずと(ベルン發共同電)

○大阪在米減少

最近の調査に依れば大阪在米減少し朝鮮米六千四百四十七石あり前月中旬に比し四百二十八石の減少

○釜屋少將北行

釜屋少將は九日朝著釜十時三十分發列車にて京城へ歸任せり(釜山特電)

●吉林問題解決●

吉林問題に對する武力威嚇の奉省軍出動は纔かに吉林叛將側の自覺を促がしたると同時に彼の中央より吉林に派遣せられたる宣慰使□宗運、陳文運二氏の努力の効果空しからずして獨立軍司令部も終に撤退さるゝ事となり同事件は茲に平定するに到れり、而して孟督軍は善後策の爲め姑く在職す可きもその決定的留任は到底望まれ得べきにあらざるが後任者は陳文運氏ならんとの說高かりしも最新の情報に據れば同氏には就任し難き事情あり今の處其の何人たるかは豫測し能はざるも其任命に就き張督軍が重大なる容喙權を有するに到れる事は確實なりと(十一月七日奉天)

○輕忽仲介者の言に動く勿れ 小寺謙吉氏談

前代議士小寺謙吉氏は滿洲に於ける事業視察の爲め滿洲に赴く途次七日夜釜山上陸同十時三十分發列車にて奉天に向へり發車を待合中往訪の記者に語りて曰く

政治上の問題は政界を遠かつた自分としては別に語るべき材料も有たぬが實業上の方面には近來頗ぶる多端で此度も小寺洋行として滿洲に所在する支店の業務を視るべく旅行中である

▲內地各地に於ける狀態は自分拵の語る迄もなく一般の人々に依りて夙に知悉せられ居れば今更らの如く蛇足を加ふる必要はないと思ふ併し朝鮮に就きては失敗乍ら經驗を有しをれば爰に少しく御話しすることゝすべし、其は曾て知人より朝鮮の狀態に就きて語られしことあり其人の談に依れば朝鮮は土地廣く田園跡りあるも耕作善く行はれず到る所廣漠なる耕地を存するも之れを開墾するの途を知らず放棄して顧みざるの狀態に在り此際少しの地價を投せば將來大に利する處あるべし是非自分にも

▲斯かる有益なる事業に投資すべしと云へり其價格を問へば內地の地價に比し格段の差ある安價なるを以て果して彼の言の如くなれば相當の利益を得らるべしと其言を信じて忠淸南道燕山郡に數百町步の地所を買收し開墾に著手せしめたるに其收穫は勞銀に充たす僅かに少許の穀を收穫せる而已なるを以て其處理に窮したるを以て實地を調査せしめしに買收せし地所は耕作に適せざる荒蕪地にして鮮人に於ても

▲不引合の爲 放棄し在りしものなりとの報告に接し直ちに開墾の計畫を止め全部に造林を行ふ可く既に殖林の方法を採りしが斯かることは自分而已に止まらず內地資本家に對して間々行ひ居れる土地仲介業者の手段なるが如し現に自分と同一の結果を見たるもの少なからざる由に聞けり然し斯かる失敗は素より資本家として注意の不行届より生ぜし結果なりと雖も宜しく土地の狀態及び周圍の事情を詳かに調査し寧ろ內地より一層の注意を加へ資本家をして一度の失敗に懲りて手を引かしむる如きは

▲朝鮮開發の爲に惜むべきことなり此點に就きては强ち地所に限らず諸種の事業に對しても一層深く注意せざるべからず一時の僅少の利慾に惑ひ前途の光明を空しく抛つが如きは各人に於ても敢て得策にあらざるべしと信ず(釜山)

◎聯隊移動協議

大田駐屯步兵第七十九聯隊本部並に同聯隊より各地に分派せる守備隊は本月下旬迄に龍山新兵營に移轉し來る豫定に付軍司令部にては諸般事務の打合せを行ふため第七十九聯隊長富塚貞二郎大佐同聯隊附小寺外二郎中佐二等主計淸水幸三郎大邱第四十旅團副官一名大邱步兵第八十聯隊附將校一名に對し十日出京を命じたり

◎稅關長會議(第四日)

稅關長會議第四日は九日午前九時三十分より總督府第二會議室に於て開會鈴木長官統裁の下に直ちに日程に入り協議事項に就き審議を重ね正午散會せり

◎格付昂上請願

朝鮮米は去る明治四十五年農商務省に於て米價調節の趣旨に基き各地米穀取引所の端境受渡の代用に採用せらるべく諭達せられ之れが實施を爲したる結果大正二年に至り當時代用制を採用せられ居りしも內地產米に比し其格付の差甚しく恰かも排斥の意味を以て格付表を調製し標準米に對する格下甚しく斯くては當業者の蒙むる不利少なからざるに依り近く各米穀取引所の新格付調製期に際せるを以て此機會に於て適當なる格付に昂上せられたき旨釜山商業會議所より九日朝鮮總督府を經て農商務省へ請願書を提出の筈なり(釜山)

◎定例長官會議

九日は定例長官會議日なるより山縣政務總監以下各部長官局長所屬官署長等は午前十時より總督府第一會議室に參集重要政務に就き協議打合せの上正午散會したり

◎地方費賦課金徵收

本年八月末日現計に依る大正六年度地方費賦課金徵收額を聞くに調定濟額二十四萬九千百五十二圓收入濟額累計二十二萬六千八百六十二圓收入未濟額二萬二千二百九十四圓調定濟額千圓に對する收入額九百十圓にして之を各種稅に區別して示せば左の如し

	地稅附加稅	市街地稅附加稅	市場稅	屠場稅
調定濟額	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
收入濟額	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
收入未濟額	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
調定額千圓に對する收入	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

◎慶北紫根の產額

藥草紫根が染料として廣く用ひられつゝある事は世人の周知せる處なるが慶北に於ては一箇年約三千貫の紫根を產し目下大邱にては市場町の佐藤伊三郎京町二丁目梁璽順の二商店之を販賣し居れるが一貫目の價格三圓約なりと(大邱)

◎十月京管營業收入

十月中の滿鐵京城管理局線の營業收入は旅客六十二萬一千八百三十六人此賃金六十一萬七千九百十圓貨物二十一萬二千七百二十三噸此賃金五十四萬六千三百四十圓にして合計百六萬四千二百五十圓に達したるが之を前年同期に比すれば旅客二十萬二千四百九十七人貨物四萬三千四百三十六噸を夫々增加し收入合計に於て三十萬八千四百七十五圓を增加したり尚一日一哩平均收入は三十一圓八十九錢にして前年同期に比し八圓十七錢の增收なり因に各線を細別すれば左の如し

線別	旅客(人)	貨物(噸)	賃金(圓)
京釜線	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京義線	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京元線	[illegible]	[illegible]	[illegible]
湖南線	[illegible]	[illegible]	[illegible]
咸鏡北部線	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]

◎持地長官出張

持地遞信局長官は十日より三日間釜山に於て開催さるべき郵便局長會議に列席の爲め九日午前八時四十分南大門驛發列車にて出張せり歸途大邱に立寄り來十五日頃歸任の筈

◎高橋武官出發

總督附武官高橋少將は大演習陪觀の爲め九日朝南大門驛發滋賀縣に向へり

◎川上理事視察

川上東拓理事は米山鑛務課長關屋土木課長の兩氏と共に十日午前八時四十分南大門出發慶尙南北忠淸南北の三道に於ける管內狀況視察の爲め出張し大邱、安東、醴泉、尙州、金泉、大田、公州、淸州、忠州を經て約一週間の豫定也と

◎島田課長南行

島田遞信管理課長は九日午前八時四十分南大門驛發列車にて長官と同行釜山に向へり

◎金川判事轉任

光州地方法院判事金川廣吉氏は十一月八日附を以て京城地方法院判事に補せられたり

◎石川中佐來任

步兵中佐石川慶吉氏は龍山步兵第七十八聯隊附を命ぜられ八日夜著任せり

◎大橋新太郎氏出發

入京中の京城電氣會社々長大橋新太郎氏は九日午後九時四十分發列車にて黃州に赴き夫より兼二浦新義州等を視察し滿洲に向ふ筈なりと

●●吉田專務歸期●●

吉田朝鮮郵船會社專務は一兩日前東上したるが右は東京滯在中の原田社長との事務打合せのためにて歸路大阪に立寄り中旬までに歸京の筈

◎巡回診療中止

愈々決定せられたる京畿道管內巡回診療は其の日割及び位置中本月三日より十二月十二日の間に於て施行さるべかりし揚州郡金谷里、加平郡邑內里、抱川郡衙邑里、漣川郡邑內里の四箇所に於ける診療は今回都合に由り之を取消されたり

◎會議所移轉期

京城商業會議所が東拓樓上に假移轉を爲すべき事は既報の通りなるが愈々來る十一日を以つて移轉の事に決定し十二月一日施行せらるべき評議員選擧は場所の都合上現會議所樓上に於て之を行ふべし

●醫師合格證書授與式●

朝鮮醫師試驗合格者五名に對し九日午後二時總督府醫院內に於て板東衞生課長其他關係職員列席の上夫れ〱試驗合格證書を授與せり

◎金道參事逝去

京畿道參事金寧植氏は十月二十六日病氣にて逝去

○露兩派衝突險惡

六日夕刻に至り露都衞戍總督と勞兵會革命軍事委員との間に於ける衝突は同總督が前伎中にエンゼロンスより軍隊を召集する爲め總司令部を民主的に鞏固にせんとの交涉繼續したる以來益險惡と成れり同委員は是等軍隊に對して政府當局者の命令に服從する勿れと命じたり午後五時に至り同委員は勞働者居住區域と市の中央區とを聯絡する橋梁を破壞し市內諸運轉を中止せり同市は忠實なる軍隊に依りて護衞されつゝあり(露都電報)

○軍事批評家意見

英佛兩國の軍事批評家の意見に曰く伊國の運命は同國軍の集中如何に由る而して聯合軍をして逆擊に充分なる戰場を有せしむる爲めヴエチア地方は放棄するを要すべく主要なる防禦線はガルダ湖及びアヂグ線なるべしと(倫敦電報)

○婦人參政權可決

紐育市は八十萬票の多數を以て婦人參政權を可決せり(紐育電報)

○林修梅邵陽占領

廣東來電=獨立したる林修梅氏は三日より寶慶の攻擊を開始し湖南より來援せる廣西軍と聯絡して四日夕邵陽を占領したり(北京特電)

三浪津より 三好生

六日の夜、奇寒冬の如き、京城を去つて、馬山に向ふ。車中吉田朝郵專務に會す。七日拂曉三浪津に著、旅館森田屋に至り。車中の假睡の不足を補ふべく朝九時半の馬山行列車の發車までを嗜眠、此の遑り豫期に反し、寒威殺く京城のそれと大差を見ず。常時在鮮名士の姓を口にするを以て有名なる此の森田屋の主婦、『德富先生は何日還らるゝや』などゝ鐵緣眼鏡を光らせつゝ問ひ出づるも面白し(七日朝三浪津にて)

■馬山より鎭海へ

午前十一時馬山に著、途中沼澤、田の溝渠に薄氷の鎖せるを見る。六日降雪あり街上を彩り十數年來曾て覩ざる大寒なりし由、驛頭に降立てば行人の步調小刻みにして寒威に怖れしものゝ如し。然かも街上の白楊、猶ほ綠葉を留めて甚しき黃葉を見ず。正午鎭海に至り要港部を訪ひしも司令官參謀長以下幹部多く不在。纔かに滿津參謀と會談數刻。腕車を驅つて市街を見物、夕刻馬山に歸著。馬山と謂ひ鎭海と言ひ、その市街の荒涼、市況の沈靜を目擊しては之れを筆にするに忍びず。火の消えたるが如し。とは恐らく昨今の兩地のために作られたる文字には非ずやとさへ思ふ。明朝出發大邱に赴く筈(七日夜馬山吉川旅館にて)

人事消息

▲原脩二郎氏(代議士) 九日夜入京
▲櫻井小一氏(仁川稅關長) 八日夜入京
▲竹內進氏(江原道技師) 同上
▲淺井佐一郎氏(漢銀平壤支店長) 八日夜入京山本旅館へ

彼れ此れ

○露國代行議會に於て、驟然たる左黨の罵倒に對し、首相ケレンスキー氏は、政府にして、國家を防禦する能はずんば、寧ろ自ら倒れんのみと喝破す。眞に悲痛の極也。光輝ある露國の興亡を一身に背負ひ、氣張つて思ふに委せぬ彼が、議會壇上に、此の絕叫をなす、悲壯の極にして、眞に血を吐くの慨也。

○日本の歐洲出兵は、聯合軍の一部不利なる都度、唱道せらる。佛紙先づ論じ始め、露軍の敗退に本氣となり。今更に伊軍大敗に際し、又た出兵要求眞面目となる。痛し痒しとは、卽ち此事なるべし。

○阿蘇の大噴火、熊本大地震あるべしとて、人心恟々、世間騷然たり。如何に學者の言明なりとて、百發百中は期し難し。况んや噴火や、地震においてをや。人相見に、劒難の相あり、水難の相ありと言はれたればとて、騷ぎ廻る者も非ざるべし。推理と實際とが、必ず確實に合致するとせば、地球は夙に大衝突を行ひ、生物全滅の筈也。斯る事は要心に如かず、油斷は禁物と知るべし。

質の確な本場
大島紬
お手紙にて御注文下され候はゞ早速適當品相選み代金引替小包郵便にて御届け申上ぐべく候
鹿兒島市金生町
山形屋呉服店
振替貯金口座福岡八三番

活字製造販賣並に活版附屬品一式
京城明治町二ノ四八
竹內活版製造所
電話三〇四〇番
多數御注文には大割引 古活字より安く確實なる活字を御用命願上候

絕好の放資物
露國公債證券紙幣
露國は滅亡するや? 否々
北滿洲哈爾賓モストワヤ街一三號
今戸

意匠圖案 美術刺繡 石版描畫
京城永樂町二丁目七六
パピラス圖案社

誠實なる製品、之れ安全第一
帝國大學病院 大阪醫科大學病院 日本赤十字社病院 陸海軍各病院 各縣公立病院 官公私立病院 御採用品
消化新藥 柏木ヂアスターゼ
本品は消化力卓絶にして品質第一なるは世既に定評あり今や國手の絕對的信用を受け不消化に基く胃腸病病後の回復期等に常に本品を處方せらる
・各地の藥店に販賣す

列車時間表 十一月一日現行
[illegible]

獻上の光榮に浴せる 朝鮮の新工藝品
＝總督府中央試驗所謹製の＝ 白青磁高麗燒以下七種

今度總督府中央試驗所から皇室に獻納して御嘉納の光榮を蒙つた白磁高麗燒菓子器又三つ組、青磁高麗燒花瓶一對、炭酸水一打、清酒一打、安東布（麻布）一卷、檀紙（色紙）一締は寫眞に示す通りであるが、今其の説明を聞くに白磁高麗燒菓子入（三組）と青磁高麗燒花瓶は共に窯業試驗部で製作したものである

白磁は慶北青松郡法水洞の白石

と、慶南河東郡北川面中村洞の白色磁土と、京畿道始興郡冠嶽山（永登浦附近）の長石とを混じたるもので、其分量は白石、長石共に四五割宛で慶南の磁土は少量である所が此の青松の白石は通常の白磁より特有の性質を有つてゐるから燒上ると一種云ふに云はれぬ光澤と色合とを有つてゐる。青磁は京城東部梨花洞官舍敷地内の土で、花崗岩の風化作用で少し分解したるものと、東大門外の赤土と、夫に少量の咸北鏡城郡から出る耐火粘土と永登浦附近（冠岳山）の

桃土と稱ふ粘土を混じて燒いた

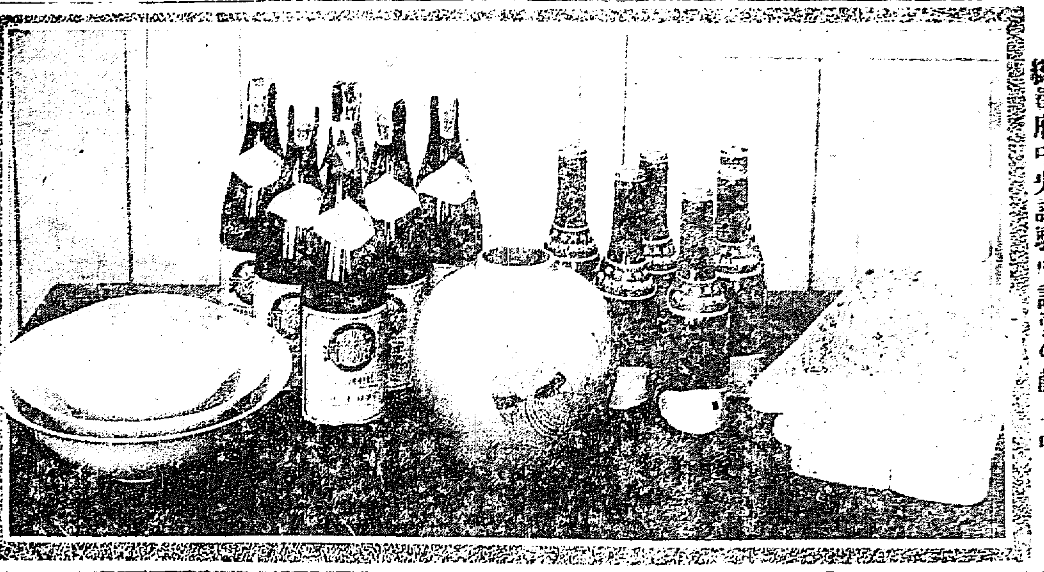
ものである。而して青磁の象嵌の土は鎮南浦の傍の眞池洞驛附近の白石、長石、石英三種を混じたるものである、又黒い顏料は紅殼に第一酸化鐵、酸化コバルト及び陶土の各少量を混へ之に光澤を出す爲に酸化ウラニユームを少し加へたものである。白磁は酸化炎で、青磁は還元炎で燒いたものであるが約一週間許りで出來上つたものである。型は高麗朝時代の古美術品から案出し石膏型により轆轤で生地を造つて燒いたものである。更らに尚ほ白磁の釉薬は永登浦附近の長石と慶南河東の白色磁土と京畿道

坡州の石灰石と海州の石英とを

調合したもので、青磁の釉薬は海州産の長石、石英に、少量の河東の磁土と東大門附近の赤土とを配合したるものである。右陶器とも目下本社隣りの工業試驗所陳列場に同品が飾つてある、次に安東布（麻布）は慶尚北道安東郡で出來るもので、麻布は一體朝鮮何處にでも産出するが慶北安東郡産の物の樣に目の詰んでゐるのは外に類が無い樣である。夫故日本内地へ移出しても立派に需要があるから將來盛んに之を奬勵したら思掛けない一大利源となるであらう。詳しい話は染色科の上田教授の談を最近の紙上に紹介する心算である。又夫から酒と炭酸水の事は先日の紙上に報じたから今回は略する事として、檀紙の説明を些し爲て見よう。檀紙とは色紙の事で

畏くも皇室の御料に謹製した

ものである。幸ひ今回御嘉納に相成つたので將來御料御用を始め陛下御料の色紙は朝鮮産のものを納める光榮に浴する事であらう



總督府中央試驗所謹製の獻上品

四温季に入る 天候一時恢復

九日朝は一寸寒く濃い霜が珍しくも地上を染め、幅射霧といつて褐々たる霧が三四時間も地上を包つてゐたが正午前後から段々温くなつて三四日來續てた

▲峻烈な寒氣も漸く薄らぐに至り天候も一寸恢復した樣であるが、九日の如き城市内に霜の降りたは恰度滿洲地方が其時霧を見て極めて僅少な雨雪があるかも知れぬが、大體に於て天候は静謐なる四温季に入つて平静なるものとなつた（京城測候所員談）

大阪清酒値上

大阪酒類組合は清酒一升に付き五錢の再値上を十二月一日より實行す可く協定成れり（大阪特電）

殺人犯の逮捕

間島來電＝邦人を慘殺せる鮮人三名は逮捕されたり（大阪特電）

飛行機母艦 若宮坐洲

呉來電＝飛行機母艦若宮は八日夜瀬戸内海安藝島水道附近にて坐洲せり（大阪特電）

大詐欺事件

全南光州郡社里面鄭仁俊（四三）極樂面雙村里李晙笑（四二）同李奉述（四三）其他數名にかゝる一萬二千圓詐欺事件は先般來光州法院檢事局にて取調中の處先づ前記三名にかゝる賭博罪のみ起訴され詐欺事件は未だ取調中なるが賭博事件は公判の結果鄭仁俊は罰金六十圓外二人は各三十圓宛の判決言渡しありたり

一千萬圓横領

臺灣生れ上海英租界居住周小剛（五〇）は長男某と共謀し三品定期米取引に失敗し一千萬圓を横領したる廉にて長崎裁判所にて審理中（長崎特電）

大演習前記
大演習の中心地 史蹟に富む彦根
彦根にて　青霞生

（上）今度特別大演習の中心地となつた江州の彦根町は往古犬上の縣主の神話時代彦根の命との地に降臨されたから其名ありと云ひ傳へられてゐる、町は琵琶湖に接し東は佐和山に連り北は磯山を抱き南は芹川を隔てゝ湖から太湖を臨み南は芹川を隔てゝは彦根城の櫓門として、兩方の…… 驚發し一城の櫓門として… 社に大なる釘穴の殘存してゐるのは彦根が時代の遺物の乱掛の跡だと傳へてゐる。其の櫓門に時報の太鼓を置いたから太鼓櫓なのである。

▲天秤櫓と云ふのは門の左右にある二層櫓で其形狀が天秤に似てゐるからの名である。秀吉の創建であつたものを全部持材である長濱城の舊城を移したと云ふ。大津城の天守閣を移建したもので、石壁は所謂牛蒡積と稱する

▲山上に登ると慶長以來井伊氏の居城であつた天秤櫓天守閣の築かれたる太鼓櫓と云ふのは彦根寺へ臨…

▲其外山上には御野立所の跡がある、湖畔の中野朝鮮人街道巡禮街道に通じる、市街の廣袤東西三十町南北十五町戸數四千五百人口二萬と註せられてゐる。

▲驛を出て先づ俥を走らせたのは金龜城の天主閣ゆる彦根山であつてゐるので今回は臨時御野立所に充てられてゐるのである、松樂る、驛から西北約八町西南から東北にのびた小丘で彦根寺はその北西長尾山に觀音堂が殘つて参詣者の原房前の持念佛の縁に依つた寸八の觀音を安置したから金龜山の名が生じたと謂ふが見なかつた。山麓の中學校が大本營行在所となり迎賓館と云ふ建物もあるが、何しろ古風な一見に價する建築である。附瞰して鏡面の風景畫を見るやうしく彩られ湖上湖岸一帶の風物を濃厚な色彩に強い印象をとゞめる湖東に於て稀に見る風光明媚な勝地である。

釜山より奉天まで 千二百圓で借切り
米國富豪フインチ氏の朝鮮通過

滿洲經濟院の西部管理局から八日滿鐵の京城管理局に宛て富豪フインチ氏が朝鮮通過北京に向ふからコレ〳〵の取扱をして呉れとの電報が來た、滿鐵京管の運輸課では鐵道院の通知により

▲一切の準備を整へたさうだが、其のフインチ富豪は米國人らしい、何でも一行は男女四人で十日の夜釜山上陸奉天に直行するさうだが、特別上等の展望臺附きの客車一輛を釜山から奉天まで借切るので、普通なら一千餘圓を拂込み四人程釜奉間に乘つてもの

▲百四十圓以内に、氏は勿驚一千百七十九圓四十錢を釜山より奉天までの汽車賃として拂ひ更に食堂賃は別に出すと云ふ、京管では近頃珍らしい豪奢振りで列車給仕一名檢車手一名食堂係員二名を乘込ますさうだが、フ氏から出るボーイや食堂係のボチも百圓を下らぬだらうとの下馬評である

外見の醜狀に拘はらず質要を旨とのので、石壁は所謂牛蒡積と稱する… 形式だ、直政が禁忌守護の密勅を蒙つた事があるから異變に際して車駕を迎へ奉らん爲に作つた樣式…

坡州の…

▽趣味ある木曜會▲
有馬醫學士の歐米視察談

▲例を示すまでもなく社交的な會合で永續するものは怎うも少ない、京城官民有志の一部より成り立つた木曜會は、其の少ない會合の一つと云つてよい、會の成立は幾年か前の餘程古い事らしく其後時に盛衰はあるが綿々として今日まで續いてゐる

▲八日の木曜、十一月の例會が城ホテルで開かれた、集まつた會員は……長、……技師、……氏、……社長、……で出席の……子校長や、……課長は……ながら共の差圖へのため、……見せなかつた

▲晩餐を共にした後、例により最近瑞西より歸朝した有馬醫學士の歐米視察談があつた、有馬氏は見聞談に入る前に、瑞西より獨逸へ入る獨逸のパン……それは露西亞の黒パンより焦色をしてゐて、いかにも獨逸の食糧難を思はせるものであつた……や、中立國たる瑞西も食糧の缺乏は今年の三月頃から非常に甚しいので、政府は獨逸に倣ひパンや砂糖や米などの食料品に切符を發行の上供給してゐると説明しつゝ、其の活動寫眞の入場券に似た幾枚の切符を見せて呉れたりした

▲若い説話に巧みな醫學士は約三十分ばかり其の恐怖と面倒と愉快と物珍らしさをつき交ぜた旅行談で、瑞佛英米の滯在並に通過の感想を話した、佛國祭に面白い所があり、又ドクトル丈けに一寸した事象の見方にも、科學的な解釋を下す所に吾々の興味は豐かであつた、講演が八時すぎに終ると其後約三時間會員と有馬氏との間の質問應答やら交互の對話で賑つた

▲氏の話しの中には既に電報や記事で傳へられた事も多かつた、唯それを新朝の氏の口から若干の新事實を附加して聞けると云ふ所に面白味はあつた、又世に現はれてゐない事は今日の所筆記公表を憚らねばならぬ事が多いやうだ、唯交戰列強の間に挾まれた人口三百五十萬しかない中立國瑞西の動搖や、瑞西に於ける英佛獨墺等の探偵の活動や、殊に聯合國側のスパイが瑞西の獨人に就き色んな研究を續けてゐる十餘の日本醫學生に向つて常に光つてゐる事、殊に東京某新聞の特派員の上にはその光り方が一層烈しい事、英國の戰時警戒壯丁の缺乏せる佛國、何事も世界一でなくちや承知の出來ぬ米國の話しは特に記者の耳に殘つた點である

▲有馬氏は鳩路佛國のボルドウから北米紐育の埠頭に上陸した時、醫院及び外一箇所に一語二圓六十六錢の安著電報を十弗乃ち二十圓ばかり奮發して打つた、そして歸朝したら其の電報がついてゐない事を發見した、然し紐育から一語三十錢で佛國に打つた電報は屆いたらしく、其の電報を受取つた氏の友人から通知が來たさうだ

▲『何故高い電報が著かないでせう』と醫學士は其の道の人矢野課長に聞いた、矢野氏は『米國電信會社の電報規則によると不著不達の責に任せずとあるから仕方がありませんね』と云ふ、すると山縣社長は『そんな事すむなら僕は明日から日米電報の引受所を初めたい』と笑つた、傍らの淺見判事は『そしていつも不著不達にしますかね』とコレも笑つたそして更に一同は高笑した

懸賞文藝（一等に五十錢 圖書券になる）

△謎「喧嘩と掛けて」

○下手な珠算と解く心は大概は感情（勘定）違い（一等）　江内富子

▲お客さんと解く心は双方（方）赤くなつて隠れ
▲着物の袖と解く心は……から手が出る
▲強盜の密談と解く心は……
▲郵便貯金と勸業債券と解く心は……
▲刑法の義務と解く心は……
▲下手な藝者と解く心は……
▲試驗と解く心は……
▲生花と解く心は……

頭骨で二千圓

全南潭陽郡龍面雙峰里金鳳鎮（二二）は外一名と共謀し同面九岩里金益三方の墳墓より頭骨を發掘し二千圓を脅迫せしも果さず検擧さる

商況

公債直取引
[illegible]

深川正米特電
[illegible]

東京期米特電
[illegible]

大阪株式特電
[illegible]

大阪三品特電
[illegible]

大阪期米特電
[illegible]

下關期米特電
[illegible]

雜報

絹糸布持合 米棉三十錢安

銘九圓丁度綿布は三

製粉先物昂騰

正米愈々強し 現物昂騰早計

鮮地正米筋の買進 仁川筋の渡

鮮買附に著手

南大門の廻穀
[illegible]

下關相場
般に引締 小賣値も一

市場雜觀

大阪止小安き入 一高一低を繰返

釜山穀物（八日）
[illegible]

白米史に昂騰

十錢見當 二十三圓七十錢

續盛 明春三月頃迄引

二倍近くに達 外に勝買 一罐七十三錢

石油罐出旺盛

引締 少増加の兆 更に二十錢方出廻は多

一段昂騰の餘地

存 行く依然強 人氣全く逆振

釜山水産市場（八日）
[illegible]

仁川期米
九日前場（保合）

大阪天候 晴 昨比 十錢安の入電

仁川取引所
十一月限
[illegible]

北濱だより
警戒が第一

白米標準値
二十三圓七十錢
現金賣
一等白米 二十三錢五厘
二等白米 二十三
小賣白米

天候
晴れ一時曇り

田中金兵衛商店　仁川米豆取引所仲買人　仁川海岸町二丁目　電話長二二八番

仁川米豆取引所仲買人　今村覺次郎　仁川海岸町三丁目　電話長三六八番

仁川米豆取引所仲買店　大五仲買店　店主 豬飼政太郎

仲買店　仁川米豆取引所仲買人

三巴仲買店　仁川米豆取引所仲買人

募集規程
▲用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事

讀者文藝 課題及募集規定

●戰亂の教訓と滿蒙

大連商業會議所會頭　相生由太郎氏談

我國は歐洲戰亂に由つて幾多の貴重なる教訓を與へられた、然れども最も切實に教へられたるは

▲米鐵の禁輸 なり獨逸と聯合國の交戰は今日如何に最負目に見るも五分五分の間に在り此の際に於ける日本の向背は直ちに敵味方の勝負に關する程の重大なる地位に在りよし日本が矛を逆しにして聯合國を伐たざるまでも日本が聯合國に對して一切の援助を肯ぜざるとせば如何に敵味方五分五分のバランスは直ちに失はるゝ事は火を見るよりも猶ほ明かなり斯かる

▲重要なる位置 に在る日本に對してすら猶ほ英米兩國は幾多の耐へ難き難題を設けて日本の發展を阻害せんと努力しつゝあり之れを以て推すに歐洲戰亂が終局を結ぶの曉に於て如何に歐米諸强が我國を嫉視憎惡して其の進路に障害を與へんとするかは今より之れを想像するに難からざる處なり然れども神は彼等の私する處のものに在らず偕に天帝の

▲攝理は宏大な り米鐵禁輸は我國朝野に大なる刺激を與へ製鐵事業の勃興を促したり鞍山站に於ける製鐵事業等も十箇年百萬噸の計畫も或は二百萬噸に增加せらるゝに至るべく日本は之等の鐵に由つて全亞細亞人の保護に當るべき天職を命せられたるものと自覺せざるを得ず史を案ずるまでもなく近世白皙人があらゆる有色人種より其の

▲富と權力とを 奪取せり有色人種にして白人種を征服したる歷史は一成吉汗のみ其の他は極めて部分的にして微々たるものなり近世の世界の關係は白人の有色人種壓迫史なり有色人種をして斯くの如き情態に措くは神の心に非らざるなり即ち僞善の文明に由つて進み來れる白人等は有色人の復讐を俟たずして互に相傷殺して自から其力を殺ぐに至れり之れ有色人が自覺興起して天賦の權力を

▲彼等の手より 奪還すべき機會である、我日本は此の機會と共に多くの金力と共に幾多の教訓を得たり撫順の石炭は鞍山站よりに餘りあり關東州內には煉鐵に要する耐火煉瓦の原料たる耐火粘土を産し飛行機飛行船用材のアルミニュームの原料等を產するあり更に南下すれば殆ど無盡藏の貴炭とを有す之れ皆な天が我日本に與へて以て全

▲亞細亞人の保 護に任じたるものと看るべきなり我日本が亞細亞人の保護に當る根據地は滿蒙なり之れ古來地の理の然らしむる處なり又我國萬年の計も又滿蒙に經略し兵器、糧食、被服の天產の豐富に由らざるべからず今後の日本本國を精神とし其の腸胃股肱を滿蒙とせざるべからざるなり戰亂が吾人に與へたる教訓は一大自覺を促すべき謎なり其の謎を解くべき鍵鑰は滿蒙に在り思ふて茲に至らず行ふて之れに及ばざれば國家の患なり（大連）

●南滿製糖

▽支那は四億斤
▽二斤で八億斤

奉天に設けられたる南滿製糖株式會社は愈よ來る十二月より工場の作業を開始すべき筈なるが荒井社長と共に來奉せる同社取締役樋口氏の談に曰く

△臺灣糖年產額 は年々增加し今や六百七十五萬擔に達し日本內地の年產額百二十萬擔を加ふれば約八百萬擔に達し現在日本內地の砂糖消費は五百萬擔にして即ち殘り三百萬擔は支那市場に輸入さるゝ現勢なるが支那に於ける砂糖消費は一人平均一斤と稱せられ即ち四億斤を消費する許なるも將來支那人の發達と與に一人二斤當りに增加せば其消費量は八億萬斤に達す可く將來支那は小洋の一大市場たると與に大なる砂糖消費地たり

△我國製糖事業 は將來此有望なる支那の一大市場を控り支那市場のみならず世界人口十七億の三分の二を占むる東洋全體に向つて雄飛せざる可からざるが差當り香港に於ける英國二大製糖會社と支那市場の競爭場裡に立たざる可からず

△戰後の貿易戰 戰後歐米の勢力は何れも東洋に殺到し來るべく劍は已に之れが準備に着手し各國皆輸出入品を制限又は禁止し日本をして獨り『黑表』中に入らしめたるの觀あり英國は印度に對し將來の政策を變更して同地に於て盛んに工業を興さんとしつゝあるが其結果は濠洲問題と大なる關係あり日本は之れが競爭に堪へ難きに到るやも知る可からずされば此等戰後の貿易戰に備ふる爲め滿洲に流入するを與に日支の親善なる大問題なり而して內地資本の

△滿洲の興業 は實に契緊の時代に於て創設せられ其製品は內地に於ける好適なる製品は東洋市場に於て及び臺灣糖と相俟ちて東洋市場に雄飛し其を驅逐するに至らば眞に東洋に於ける一大權威たる可しと信ず」と（未完）

◆指頭の捌き鮮やかに

商業專修學校生徒の珠算競技大會

十一月四日日曜の午前十時、仁川商業專修學校では珠算獎勵の目的を以て競技大會が催された、當日競技會場に當てられた小學校の雨天體操場には來賓、地方の參觀者各學校の校長職員等を以て充たされ選手四十八名の生徒は晴の勝負に日頃の妙技を競ふべく著席する、對校競技としては鮮人側より

◇◇商業生徒 四名の出場があり地方よりは特に京城替爲貯金管理局から和田壯平氏末永虎熊氏野村豐三氏外一名の出場があつたので更に一段の活氣が溢れた、唯だ惜しむらくは仁川市內の各銀行會社或は商店等に於ける技者の出場を勸誘せるに不拘一人の申込者が無かつた一事である苟も算盤を持つて飯を食ふ側の人は多少の趣味があるべき筈の

◇◇で年一回 而も珍らしき趣向の催しになる此の種の競技に何等の趣味をも持たぬらしい態度には聊か物足らぬ憾みがあるそれでも此の日の盛況は素晴らしいもので拍手急霰妙技を盡して手に汗を握る許りの有樣であつた先づ第一に組別競技を行なつた加減法を競して五位の數に二位で割り或ひは三位の數を乘ずる位で幾分樂な數字を與へたがそれを

◇◇胸の中で 計算して正確な答を出すのに僅かに一分三十秒を要した、珠算乘法に移つて五位の數に七位を乘じ或ひは簡便法を使用して五位に八位及び五位に六位の乘法を行はしたが之も平均一分三十秒を以て答案を得た、暗取珠算に於て元帳の計算即ち貸借方の差引殘を出して縱橫の合計をキチンと合する迄に五位の數で約七分で終り、三位及び四位を混せる

◇◇書取暗算 では僅かに二十二秒と云ふ驚くべき急速の妙技を示して居る、加減法では大小をやつたが、生徒の明敏な頭腦の働きに鮮かなる指の捌きに、其の熟達の技倆は實に驚かるゝ許り來賓一同は舌を卷いてゐた、組別競技に移り飛入り競技に移つて敗退競技に移りしに進む、此又頗る一同を感服せしめたのは

◇◇商業生徒 即ち鮮人學生の珠算に最も卓越した技能を持つて居る一事であつたのが專修生徒との競技には場內の氣分自から緊張して一勝一敗互ひに懸命の技を揮つて觀客を醉はしめた最後に京城より出場せる選手管理局

員四名の模範競技があり殆んど神に迫る其の珠の冴に一同は喝采を禁じ得なかつた、此のカードの準備が無かつた爲めに山來管理局で最も得意とする所を見る事の出來なかつたのは頗る遺憾であつた、斯くて午後三時終了來賓一同は本校の別室に入り割ふ卓子を圍んで卷鮨の饗應を受けつゝ珠算、話に花を咲せた（仁）

◇◇カード計 算の妙技を見る事の出來なかつたのは

●仁川の酒

は灘よりも好い

と面白い證明を得た

灘の銘酒は外では出來ぬと主張して來たものも近頃では仁川で灘以上の好い酒が出來て居る、人は習慣性で內地酒も灘の銘酒が一番好い樣に其の威念を持つて居るから酒と云へば必ず灘と云ふ、地酒なんか飲まるゝものかと頭から高を括つて惡いものと極めて居る、そして足元に立派な酒が出來て安く飲まるゝのも知らずに殊更らに高い金を出して內地酒を飲むで居るつい先日或る處で灘の銘酒も置いてある、五六人の者が之を取つて一々吟味してみる者同じ樣に或る番號が一番好いと成つた調べてみると

□一等二等は□ 仁川の地酒で白鶴が漸やく三等に成つて居るそこで今度の天長節には其の一等の仁川酒を使ふ事になつて初めて地酒の眞價を認めらるゝ樣になつたと云ふ事である因みに評判に計り乘つて足下に氣付かずに居つた矢先ほんな證明が得られて之から自作自給の途が開けて來るを濁り個人の經濟的利益計りでなく仁川の爲め又朝鮮の爲め大いに氣焰が揚る譯である（仁川）

□天長節祝賀□ にも使ふ酒を是非仁川で造つた地酒にしたいと云ふ人があると例に依つて地酒が飲める者かと灘酒を主張する人がある、それじや何が好いか飲み較べる事にしようと云ふので四五種の酒をそこに並べた勿論總べて番號を附けて其內には

◆軍用としての朝鮮馬

步兵第七十七聯隊電話架設術教官齋藤中尉は軍用としての鮮馬の能力に就き記者に語つて曰く今回の機動演習について自分の部隊たる電話架設隊に鮮馬を試用したるが偕に朝鮮に於いて輜重駄馬として其能力を充分に認むることを得たり殊に朝鮮は內地と異なり道路狹隘山間の阪道を往來するが如き場合に鮮馬の効力は遙に軍馬以上の効力あり今回の演習に就いて一頭に二十八貫の軍用品を搭載し一日八里の行程以て十八日間の旅行を爲したるが其の行動に何等の支障あるを認めず只鮮食馬糧を爲すの時間比較的多きは遺憾なるも將來鮮馬を軍用に使用すべく改良を加へ且教育するものとして改良を加へ且教育すれば其効力の鮮少ならざるを信ず

●本溪湖瞥見（下）

▲第二鎔鑛爐竣期 歐亂勃發の結果は內地鐵の需用額頓に增大し加ふるに戰前供給國たりし獨は當の敵となり英米は輿國ながらも鐵の輸出を禁止するの狀態となりて急なるものあり此の時に當りて國家は製鐵業家の努力を待つや極めて切なるものあり此の時に當りて該公司第二期計畫なる熔鑛爐其の工事を竣成し本月中旬を以て火入式を擧行せんとするに至り大倉鶴彥翁も老軀を提して其の式に臨むべく既に先發隊は京城にあり邦家の爲め誠に慶賀に堪へざると共に該公司の貢獻する甚大なるを覺ゆると共に鶴彥翁の努力尠少ならざるを多謝せずんばあらず候。

▲優勝の本溪湖 抑々本溪湖炭は製鐵用コークスとして極めて優良なるものにして本工場所要外のものは殆んど全部を八幡製鐵所に送附致居候、又本溪湖の周圍を取り卷きたる山嶺に充滿せる石灰石は此れ又製鐵上非常に優良なるものゝ由にて候、而して本公司製鐵に要する原鑛は南坎驛を距る約五哩なる廟兒溝より產出する褐鐵鑛にして含有量約七十パーセント、該鑛は硬度極めて固く爲めに赤鐵鑛を混合せざれば製鐵上莫大の熱を要する爲め混合用として本公司は朝鮮价山鑛より赤鐵鑛の供給を受け多くは鎮南浦より便船を以て搬入の法を取りつゝありと聞及び申候。

▲本工場唯一の誇 本公司工場の一大誇と稱せらるゝものは工場上の設備優良なるのみならず普通熔鑛爐には四基の熱風爐を必要とするを原則とするに本工場は第一第二熔鑛爐ともに各二基のみにて優に四基以上の能力を發揮致居候は設計者の企畫宜しきを得たると共に本工場の一大特色一大プライドとする所のものにして何もかも豫定企畫の均一に日平均製鐵額百噸なりしものの力あり是れを二基にすれば一日平均百五十噸を製出して餘裕あり非常時に當りての年產額六萬噸は決して輕視し得ざる所にて候。

▲正比例せる市中 本溪湖市は多く云ふ所なく只々帶の如く蛇の如く山麓に中腹に延々として細く長く橫はり居申候、市中郵便局あり警察署あり憲兵隊あり滿鐵の地方事務所あり守備隊ありて萬般の施設殆んど備はらざるなく安奉線の有數の大部會を形成し抱擁せる人口正に四千に垂んとし是れを合すれば優に六千の數を超ゆるによりて生計を立てつゝあるものにて其の大勢は常に採鑛公司の事業に正比例して進展しつゝあるの事に御座候、今や公司の第二期擴張を見更らに第三第四と順次期して俟つべきや必せり、大倉翁の事業進展と本溪湖市の前途や眞に觀福に堪へざる事共にて候。

◎無門會例會 無門會十一月例會は十日午後四時より京城商業會議所樓上に開催し松藤瑞巖老師を請じて碧巖一則の提唱ある筈

●禁酒演說會 十日（土曜日）午後七時半より旭町二丁目メソヂスト教會に於て開催す大島正健氏の禁酒講話なる演說あり

●筑前琵琶大會 京城井加琵會にては創立滿四週年記念の爲め十日（土曜日）午後五時より本町演藝館に於て筑前琵琶大會を開催する由入場料は無料なり

左甚五郎

第七十九席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

柳生飛彈守宗多が 宗『甚だお耳障りにござります、井筒をヒョイと私が見まするを白紙が一枚落ちて居りました、ハテナ、何で此處に紙が一枚落ちて居つたかと我知らず其の白紙に心を奪はれまして其の紙に至りまするを身體に隙を生じました、それが爲に身體に隙を生じましたのは未だ其の技が熟しません故で、先刻觀世が井筒の能を舞まするのを手前拜見をいたして居りましたが、身體に卵の毛で突いた程の隙もございません、是れ一つを拾つけやうと存じましても其の隙を見出すことが能はず殆んど感服をいたしました、其の觀世太夫は其方日本一の名人である』と御面目を施しました、家『ウム成程左樣であるか』能の程は是非ともいたしますと其の觀世太夫が

武程現世は當代の名人恐入つたまへのと感に堪へて拜見いたして居りましたる處、井筒を覗きました時に身體にガラリと隙が現はれましたは、偕こそ一太刀斬付けるのは此處だと存じましたによつて、我知らず此處だと大聲を發したる次第、御耳を驚かせ奉り甚だ恐入ります』家『偖々其方は武藝の達人、感心致した』家光公手を拍つて御感心遊ばし『偖々其方は武藝の名人でござる』家光公も非常に御感心遊ばした、それ程心を用ゆればこそ日本一の武藝者であると云ふことである、乃で觀世太夫を召されまして『其方井筒を差覗きたる時に身體に隙が現はれたと云ふことであるが、それは何ういふ次第であるか』と御尋ねの時に觀世太夫が『御

酒癖が惡い、總て癖が强うございます、一度云ひ出すと決して後へ退かないといふ人物、されば藝術も是れに準じまして熱心に修業をいたしたものと見ねます、扨其の頃京橋の松屋町に住居して居りました源五郎は頗る宜くいたしまして名人の打つた面でなくては用ゐになる生諸方へ出入をいたしまして源五郎の打つた面でなくては用ゐにならないといふ位、大した技術でございます、職業を勵みさへすれば裕福に生活も出來ますが、偕昔の職人といふ者は業の出來まする人に限つて何うも放蕩でございます、餘り職の方に宜くない結句鈍い人は一生懸命に働いて何うか差支なく今日の生活を立てますが、此れに限つて、其の方は何うか差支ない人に限つて、竹棒め錢金は

源五郎でけございません、偕棒め稼ぐ時には稼ぐ氣のむかね時に仕事をしたつて何が出來るものか、グズ〳〵云ふな酒を買つて來イ、何れ其內に氣がむけば細工場へ座り直つて腕によりをかけて仕事をすれば直ぐ諸方から金が集つて來る、と云つて怠けて居る、何でもクヨ〳〵する處は無い、酒を買つて來イ、友達を呼んで來イ、と飲んだり遊んだり、御に放蕩ざんまいをいたします、源五郎は猶且仕事をするのは月に三日か五日、後は其處らを飲んで遊んで步く、偶に自宅に居れば友達を引き摺り込んで、夜も構はずに臥みまするまいといふ工合、貧乏のなんのと云つて、年中一枚著物を引つ張つて、ボロ〳〵した服裝をして居ります、少しも氣に掛けません、夫婦の間に源吉といふ今年十二になる悴がある、只だ一人の悴で么ます、お節が來ても正月が來ても晴衣一枚著せてやうといふ氣も無い、きるッきりもう構ひませんからボロ〳〵した姿をして子供も左のみ心にもかけません、猶且平氣な顏で其邊を遊んで步いて居るが、女の心をかつけ女のことだから然うは行かない、三日に上げず意見をいたしますが、何に女房の意見なぞ

荊妻のぶ儀
豫而病氣之處療養不相叶昨八日死亡致候間此段謹告仕候
追而葬儀は明十日午後一時自宅出棺南山本願寺にて相營み可申候
大正六年十一月九日
岩下彌平
親族總代　友永貢次郎
總代　和田常一
友人　野村孝造
總代　三好和三郎

東京市神田區九軒町一番地
鳥獸御製用
義眼卸小賣
米山商店

新築落成
京城明治町一丁目
入院隨意
宮陽病院
電話一六五九番
院主　佐々木省造

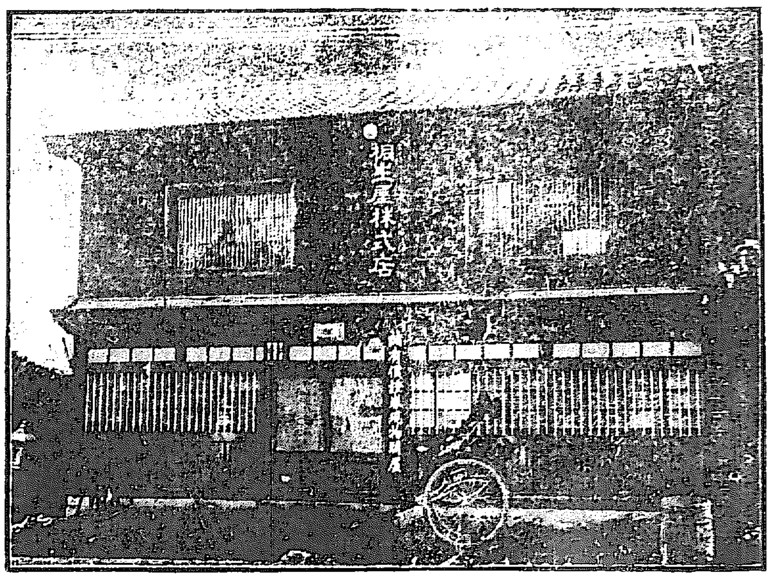
十一月十一日　九星
舊九月廿七日丁巳
本命七赤　西厄　大安

演藝案內

有樂館　浪花館　大正館　黃金館

汽車時刻 京釜線(南行) 同(北行) 湖南線(南行) 同(北行) 京義線(北行) 同(南行) 京仁線(仁川行) 京元線(北行) 同(南行) [illegible]

桐生屋株式店



(桐生屋株式店)

營業課目

現物部 有價證券、諸株式現物賣買 其他

金融部 有價證券擔保、代理貸附の仲介 其他

信託部 社債、株式の募集及び一般信託事業

調査部 財政、金融並に諸會社內情調査 其他

京城永樂町(電話長九一四、同一一二六、同二八二三、同三〇八五(常會用))
桐生屋京城株式店

仁川宮町(電話長三五五番)
桐生屋仁川株式店

平壤本町(電話長一一六番)
桐生屋平壤株式店

店主 林金五郎

支配人 法學士 檜垣精三郎
京城會計主任 箸方義三郎
京城營業主任 橋本員男
平壤會計主任 村井正明
平壤營業主任 安立顯藏
仁川會計主任 坂倉伊平
仁川營業主任 平佐爵藏
法律顧問 辯護士 高橋章之助
法律顧問 辯護士 法學士 內田守藏

謹告

謹啓 前記の如く拙者等今回桐生屋株式店へ就職仕候間何卒倍舊の御引立の程偏に希望仕候

東光社主 箸方義三郎 京城西大門外(電一七〇六番)
大和商會主 村井正明 平壤本町(電話一一六番)
坂倉質店主 坂倉伊平 仁川宮町(電話三五五番)

桐生屋株式店開業の理由

[illegible]

成功者となる唯一の近路

[illegible]

確的安全なる現株賣買

[illegible]

定期證據金で立派に現株賣買が出來る

[illegible]

株式黄金時代

[illegible]

大正六年十月二十日

桐生屋株式店主 林金五郎識

(一)號五十四百六千三第　THE KEIJO NIPPO　日十月一十年六正大　年中無休

京城日報

十日朝刊
(朝夕刊併せて八頁)

京城日報

獨逸の植民政策

獨逸は此度の戰役の初めに於て其膠州灣及び南洋諸島を我日本の爲めに攻略せられ、其阿弗利加諸植民地は概ね英吉利及び佛蘭西の爲めに奪はれたる爲めに、現在海外植民地なるものを有せざるなり。從て當初彼は一旦海外經營を斷念し、專ら中歐同盟の確立に依りて自己の新天地を形くることに腐心しつゝありたれども、今や明かに其運轍を改めて後日其植民地を回復するの志を定め、今方に植民經營の準備に務むるものゝ如し。最近歐洲通より傳はれる諸報道を綜合するときは、獨逸政府は植民地銀行を經始し、及び植民地産物處理方法に關する調査機關を設くる等、皆後日に備ふる所以のものならざるはなく、露國、丁抹、瑞西諸中立國に奮起して、努りに其の經營を進めむとするものに似たり。

今日獨逸は殆ど其海外植民地の總てを喪失したりと云ふも、其東阿弗利加植民地は今猶ほ保持し居り、獨逸兵の同處にあるものは僅かに三四千人に過ぎざるも、刻苦忍耐以て自ら守り、英吉利、白耳義、葡萄牙の連合軍十有餘萬之を攻撃するも、地理、氣候攻者に便ならざる爲めに、孤軍其餘喘を保つを得ると云ふ。味方より之を見るときは、東阿弗利加の未開地の如きは固より大なる犧牲を供して之を取るべき價値なきや、勿論なれども獨逸に取りては此地は則ち彼が唯一の海外領土にして、後日阿弗利加に於ける領土問題に發言權を保つの根據たり。是れ其の死守して容易に降らざる所以なるべきか。

獨逸は何故に中歐同盟に熱中せずして、强て植民地經營に執著するに至れりや。吾人は今其詳細を知るを得ざれども、彼は此度の戰役に遭逢して、益々其經濟上の自給自足の必要を感じ、平時にありても其産業の獨立を保たざるべからずとせば、海外植民地に依りて其本土の足らざるを補はざるべからずと爲す。且其化學工業の發達に依りて益々植民地産物に待つ所以のもの多きを覺り、此に其方策を轉換せるものならむ。且一時獨逸の中歐同盟の聲甚だ高かりし爲め、協商側は此に刺戟せられて、巴里經濟會議を形くり、戰後に於ても獨逸を經濟關係より孤立せしむるの計を立て、北米合衆國は巴里會議に參加するの意思なきが如くなれども、これと同時に中歐同盟といふが如き、利己的排外團體を形成ることを甚だしく[illegible]、獨逸の政策は偏に平和回復後に於て自己を孤立せしむるに終るべきこと昭々として明かなり。即ち是れ其聲を收めて暫く世の視聽を避け、翻つて植民地經營の善策を取るに至れる次第なるべし。且今後の戰局に如何なる變化を見るべきや逆じめ之を睹る能はざれども、現在の形勢にては、墺洪國は事實上獨逸の保護國たり、土耳其、勃牙利は言ふに足らず、塞爾維、羅馬尼は既に蹂躙し去りたり、彼、勢中には復た中歐同盟を說くを[illegible]、是れ其深く[illegible]要なきの欲を植民地に滿たさむとするものならざる可からず。

三代の金石

彭天

三、周宣王の石鼓文

周代の遺物として名高いのは石鼓文であります。これは周室中興の英主たる宣王が岐山の陽に田獵した時、その詩十篇を石鼓に鐫りつけ、籀文を作つた史籀をして書かせたといふのです。なぜ石を鼓形にしたといひますと、當時の法として、文治に關する事は鼎などに刻しました。武德に關する事は鉦や鼓などに刻しました。田獵は武事でありますから、その記念の詩を刻するに鼓形の石を以てした次第であります。

石鼓は直徑三尺程の石で、その數は十個あります。第一が六字詩の十一行、第二が七字詩の九行、第三、第四が七字詩の十行、第五が六字詩の十一行で、第六は十一行あります。第七、第八、第九は五字詩の十五行、上部は磨滅して仕舞ひました。第十の二個は全部磨滅して、行數もトント判然しませぬ。が四字句の詩十篇ですから、七百二字となるのが當然であります。この石は現に北京の國子監大成殿門の左右にあつて、無心ながら三千年來の歷史を目擊して居ります。この程德富蘇峰先生は之を御覽なさつたさうでありますが、私は先生が躊躇低徊、その側を去るに忍びなかつた事と推察します。

石鼓は唐以前にあつては餘り世間に知られませんでしたが、貞觀の頃から漸次好事家の間に持囃されるやうになりました。即ち蘇勗・李嗣眞・張懷瓘・杜甫を始めとして、韋應物は長歌を作つて之を歎じ、また韓退之は、張生といふ人の持つて來た拓本を見て、有名な石鼓歌を作りました。これ等の諸公は石鼓が宣王の獵碣、史籀の篆書たることを疑ふものはありませなんだ。當時石鼓は陳倉の野原に散亂して居りましたから、韓退之は大學に建言して、駱駝に乘せて京師即ち長安の太學へ運ばうとしましたが、行はれずして仕舞ました。其後幾何もなく鄭餘慶が鳳翔縣の孔子廟に移し、尋で五代の大亂に逢うて散亂しました。宋となりますと鳳翔の知事司馬池が散亂した石鼓を集めて府學に置きましたが、何時の頃かその第十石を缺亡したものがありました。皇祐年間に至り、向傳師が民間からその眞石を探し出し、茲に完全なる物と致しました。この時讀み得べき文字は凡そ四百六十五字あつたといふ事です。歐陽修の『集古錄』に載つて居るのは、この時の拓本であります。

歐陽修は石鼓の文字の史籀でなくては書けないといつて居りますが、しかも頗る疑問があるといつて之に向つて三大疑問を發しました。即ち(一)どうして刻みの淺いこの石が二千年來の風霜に磨滅しなかつたか。(二)どうして兩漢以來の博識家に知られなかつたか。(三)どうして隋書の藝文志に錄してないかといふのです。これが石鼓に向つて放たれた疑問の矢の第一鏃であります。この後幾程もなく蘇東坡の石鼓歌が世に出でました。その中に現はれたる所によつて、當時に於ける好古界の趨勢が想像せられます。

徽宗の時に當り、石鼓は鳳翔から京師即ち開封に移され、その文字は黃金にて塡められて裝飾のために石の磨滅する患はなくなりましたが、かの靖康の變には、佳人珍寶と共に金兵に掠奪されて、燕京即ち北京に移されました。石鼓が金兵のために黃河に投げ棄てられたとの評判起り、好事家の痛惜は大した事でありました。

支那漫遊

紫禁城

蘇峯生

北京に入りて、第一に目に著くは、其の通衢、大道の改善せられたること也。勿論一たび横徑に曲れば、舊時の北京を見出すも、其の表向きは立派也。

第二には紫禁城の開放也。固より入場料を徵收すれども、今は文華殿には古書畫を陳列し、武英殿には、陶器、七寶、銅器、其他骨董を陳列す。陳列の方法は、秩序的、科學的と云ふ能はざるも、其の品質は、正しく其筋の者には、半日にあらず、半歲を此處の觀覽に費すの價値ある可し。

予等は北京到着の第一日に、公使館訪問後、直ちに東華門を經て、紫禁城に入る。城壁には、斑瘢斑たり、問はずして、張勳復辟當時の記念たるを知らる。先づ文華殿に入りて、書畫を見る。書は東坡、山谷より、文徵明、董其昌に至り、畫は黃荃、徐熙より、清朝の郎世寧、尚其嚴等に至る。其の十中の九迄は、乾隆御覽之寶、若しくは三希堂鑑賞の御印を鈐せられ、而して其の御題の文字あるもの、亦た少からず。他の事は姑らく措き、書畫の一端に於ても、乾隆帝の功は、沒す可らざる也。

武英殿には、熱河及び奉天の離宮より移したる諸骨董、諸寶器、雜然たり。中にも鈍金の食器、及び用度品の夥多なるは、未だ知らず、英國ウインゾル宮の黃金の食器と孰れか其の數量を競ふ可き乎。愛親覺羅氏の盛時想ふ可し。予等は乾隆帝の回疆より携へ來りたる、寵女香妃の爲めに、特に設けたりと稱する、土耳古風の浴堂の跡を見。紫禁城の內、大理石の欄干に倚り、夕陽が各宮、各殿の瓦、丹壁に映じて、蒼然目を眩するの狀にあこがれ、更らに眼を放ちて、明末崇禎皇帝が、自から縊れたる城內最高點の景山を、落日蒼茫の際に眺め、低徊去る能はず、漸く閉門の爲めに、轉じて中央公園に逃げたり。

大正六年十月十五日朝　北京ホテルに於て

老柏と新男女

中央公園にも、亦た入場料を徵せらる。園は天安門の西側にありて、從來の社稷壇也。予等隊を陪て、紫禁城に對する、極めて幽淨の邊、老柏の欝然として、聳立したる下に立ち倚り、綠茶一杯を喫し、更らに步を轉ずれば、其の露臺や、殆んど地は上野にして、人は淺草なるの感あらしむ。道の兩側となく、樹下水邊、何れも椅子を立て並べ、彼處にも此處にも、新らしき男と、新らしき女の群集、何となく北京が一躍して、巴里となりしにあらずやと疑はる。

所謂る中華民國が、物質的に、刻々、變化しつゝある狀態は、此中に於てさへも看取せらる。而して變化せざるは、園內に尙ほ殘存する、數百株の老柏也。予は此の老柏が、其の老幹古枝を、數百年の風霜、雨雪に打たせつゝ、倘ほ天地を睥睨して、儼然として立つあるを、欽せざるを得ず。所謂る歲寒の心は、唯だ此の老柏と語る可きのみ。

大正六年十月十五日朝　北京ホテルに於て

海雲研

[illegible]

之氣大正之光。

謎 (11)

布施生譯

老人は機嫌よく「それぢやあ私の採つた方法を話して聞かせましやうか、ゑゝ、聞いてみれば何でもない事ぢや、私が藏部に疑をかけたのは今も話した通りぢやが、私は其時からもう後は占めた物だと思つてかゝつた。私は素から助手を何人か使つてゐる。藍屋と云ふのは藏部の家に入込ませてあるし、美那子は保[illegible]に入込ませてある。」「さあそれが不思議なんです、どうして美那子[illegible]がそんな役目をはい〳〵と引受けましたか。」「いやそれが即ち私の腕ぢやて、兎に角今日の處は私が居なくても他人の眼や耳が完全に働いて呉れるのぢや、私はたゞ專ら過ぎた事實を調べにかゝつた、そしてボーケルへ往きました、往つた[illegible]私は[illegible]家の名使やつた我五の子息と懇意になりましたので、此奴が好な男で私の商品を買はうと云ふのかね[illegible]に取込んでくれましてな、[illegible]すつて[illegible]は呆れて閉口しました。」老人は相變らず微笑して「左樣す、たあに私は其時こんな風に[illegible]なつて商品を買ひに出懸けました、そして商買の話に一日[illegible]しまして[illegible] [illegible]

そう聞くと私は前にオロロンまで踏んで往きました。」「よく御苦勞にはなりませんねえ。」「なあに私の道樂は治らない間に打て[illegible]で云ふのぢや、オロロンでは元[illegible]の使やつたと云ふ男に會つてこれも上官尼に採索が届きました、一件の發つた日、怪しい職工らしい男が入込んで來た事、其の職工らしい男と云ふは多分猫太郎ちやらうて」「さうでしたか。しかし御老人そんなにしても御互ひの話振まで調べてあんなに詳しく――」「話は私の想像だと思はれるかな、そんな事は無い。昌吉は私の助手がこちらで働いてくれましたぢや、藍屋は利介と賴太郎との間に往復した手紙を寫眞に取つてくれるし、地獄耳の美那子は豫ての話を立聞して細大漏さず私に知らしてくれました、

商業登記公告

[illegible]

京城地方法院

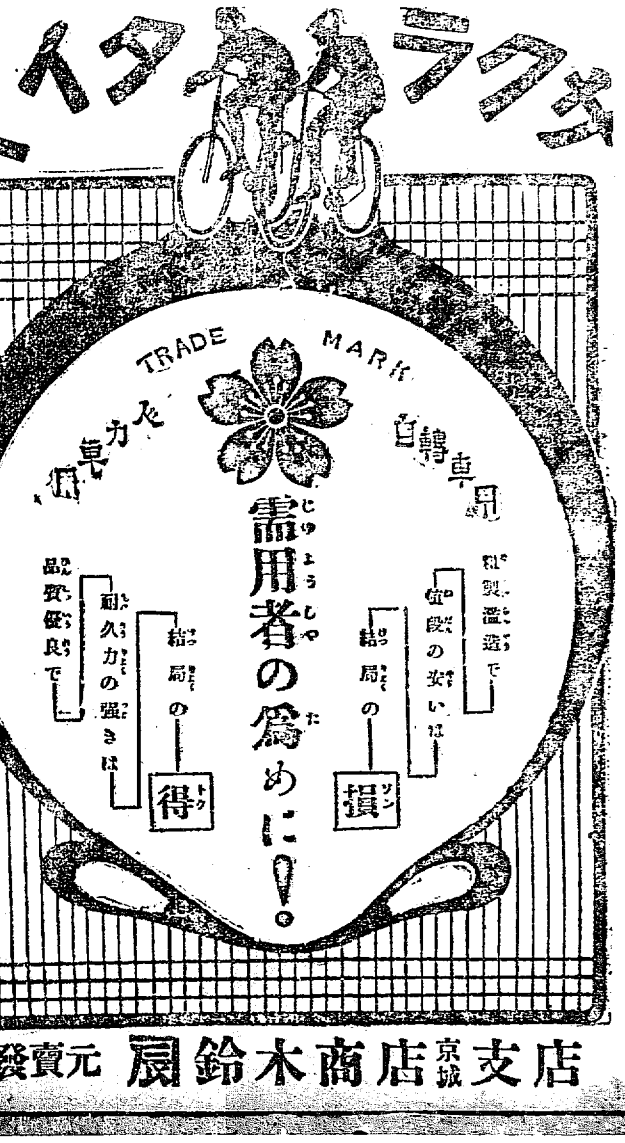
眼鏡

米國製 金張眼鏡

[illegible]

中村眼鏡店

[illegible]



發賣元 鈴木商店 京城支店

賜宮內省御買上榮

謹告

弊店謹製人蔘製劑は曩に數回宮內省御買上の光榮に浴したるが今回又復東京化學工業博覽會に於て

畏くも

宮內省御買上の

恩命を蒙むり

無上の光榮こして幾久敷記念こ致候茲に謹而愛用家各位に謹告仕候

京城鍾路 電話八番

高麗人蔘本舖
アイゼル東洋總代理店

井上藥品部

ニッポノホン

日蓄十一月新譜出し

松尾太夫氏の新吹込

一、常磐津 お園六三 州崎堤

一、長唄 五郎

一、義太夫 吉田屋

一、ばやし 歌舞伎十八番「暫」

一、謠 櫻間金太郎

鷲印レコード 金一圓五十錢の五十錢引

ニッポノホンの新製品 スタンダード西洋剃刀

日本蓄音器商會

京城本町二丁目二十九番地

露國の政變

▲ケ内閣倒る 又復露國の政變

無線電信に依る露國公報に依れば露都ペトログラードに於て守備隊と勞働者との間に衝突起り守備隊はケレンスキー政府を斃したり（紐育特電）

▲ケレンスキー内閣は總辭職をなせり（露都電報）

▲革命狀態の再現

ケレンスキー氏は勞兵會の要求を拒絶し露國衛戍總督及び新任參謀パニコスキー氏に命じて内亂鎮壓の非常手段を執らしめ露都は六月以來革命の形勢となれり（露都電報）

▲政變を見るまで

過激派の陰謀＝假政府の壓迫＝過激派軍隊を籠絡

ケレンスキー内閣と勞兵會革命黨の間は頗る險惡を極め非衝突免るべからざる形勢なりしがケレンスキー氏は此の過激派に對する策として露都守備兵の力を以て壓迫し居たり、然るに最近に至り過激派は守備兵の一部と氣脈を通じケレンスキー内閣顛覆を謀り以て主權を獲得せんと企てケレンスキー氏は田舍に對し代行議會にて是等謀叛的行爲に猛烈なる攻擊を爲し殊に勞兵會が勞働者に對する武器を配付せるは正に國家に對する大謀叛なりとして政府が謀叛者に對し相當懲罰を加へざるに於ては寧ろ倒るべきのみと述べしも反響微弱にして現内閣の爲めに不利の形勢なりしが守備兵が愈々ケ氏の手を離るゝに於ては形勢の變遷測るべからず再び露都は擾亂の巷と化せんとし人心恟々たり（露都電報）

▲ケ氏行方不明說

露國政府は莫斯科に遷都すべしと傳へられケレンスキー氏の行方不明となれり（露都電報）

▲勞兵講和準備

勞兵會は戰鬪命令を拒絶したるが之れ講和を出征軍隊及び國民に宣言せんとする準備なりと察せらる（露都電報）

▲勞兵會軍隊召集

勞兵會は政府に政權引渡を要求し直に露都占領に托して勞兵會の軍隊を召集せり哥薩克兵も勞兵會と通じ居れりとの說あり（露都電報）

▲出征軍隊に命令

勞兵會は[illegible]し勞兵會政府の名を以て出征軍隊に何[illegible]命令したり（露都電報）

▲代行議會の迷惑

勞兵會の干渉にて議事を開く能はざる[illegible]狀態に陷れり（露都電報）

◎奉天と特産物

此頃の驟寒に依り奉天市場に於ける特産物の出廻り頗る[illegible]更につかず氣迷ひ居の小洋安の買入れの小洋暴騰の結果[illegible]は下落[illegible]進む者あり爲めに商[illegible]は此[illegible]下の作柄ならんと强氣を唱へ買ひ[illegible]向分時中約六分强にて中にも高粱はそれ以[illegible]

◎忠南教育狀況

忠淸南道に於ける大正五年末の調査に依れば公立小學校數[illegible]內地人教員二人合計七人、生徒男[illegible]四十一人女二十八人合計六十九人、地人教員七人、鮮人教員十八人計[illegible]私立學校十三、學級數二十三、[illegible]普通學校三[illegible]

◎釜山各月貿易額

[illegible]輸入額二百[illegible]萬二千三百四十二圓[illegible]合計四千三百六十二萬[illegible]輸出超過額九十五萬八千三[illegible]五萬[illegible]十九圓の輸出超過を示せり[illegible]

◎新將軍一行

支那觀戰武官靳雲鵬氏一行は坂西少將案內の下に九日朝關釜連絡船にて下關着布帆樓に入り馬關講和談判の跡を偲び午後十時十分發列車にて演習地に向へり（門司特電）

◎物價騰貴と地方經濟狀況（九）

京城商業會議所調査

▽黄海道地方

本道は一般的に觀察すれば農民の生活上には好影響を與へ就中中流以上の農民に此感あり下流の農民は充分の餘裕を得たるが如く只其の一部に五、六月の交に窮乏を來し甚だ困難の狀態に陷りしも其後白米の金融を得て窮厄を緩和し七月に入り麥の收穫ありて困難の跡を絶つに至れり、商工業者も特に好影響を受けたる商業は穀物商なりとす乃ち米價騰貴の爲め賣れば即ち利を得るの程度に陷りしが織物就中麻布は從來中流以上の者のみの需要に限られたるも近時は一般農民を通じて盛んに需要する所となりしを以て當業者の利潤極めて多し之に反して最も惡影響を受けたるものは葉煙草商並に小規模の織物商なりとす煙草は農民好景氣の結果として其の嗜好勢ひ高價なる卷煙草に移り葉煙草の需要頓に減少し當業者の打擊少からず又織絲は從來少からず[illegible]しも自家にて機織し衣服と爲せしも近時は直ちに綿布を購入して使用するに至りたる爲め小規模業者の營業上[illegible]打擊を受けたるものあり然れ共是等の[illegible]に止まり[illegible]業者に至りては今日世界的の大戰に伴ひ非常の好況を呈したるも[illegible]建築其の他職工勞働者を使用する各地に於ける土木建築業者は本部內一、二を算するのみなるが其の營業に就ては[illegible]並に事業費益々高まり又職工勞働[illegible]

◎南北相鬩ぐの秋に非す

共同宣言と支那論調

日米共同宣言に對し北京言論界の論調を綜合するに日米兩國は同宣言に依りて對支政策に對する誤解を一掃し相互の意思を了解せるは歡迎するに躊躇せずされど米國が日本の支那に於ける特殊利益を認むるの結果は支那に如何なる影響を齎らすや最も注目すべく[illegible]商業上の經濟的利益を宣明せる裏面には其の意外なる政治上の特殊利益を弼要せることに默認し居らざるや、殊に今後日本は歐洲戰爭に乘じて支那人に對して南北の[illegible]

◎帝國議會召集期

十二月廿五日と決定す

第四十回帝國議會の召集は前閣議にて決定御裁可を經たるより寺內首相は九日の閣議に報告し尚ほ議會召集の詔書は十日の官報を以て左記召集の詔書を公布する手續を協議せる結果[illegible]べし（東京特電）

詔書

朕帝國憲法第七條及ヒ第四十一條ニ依リ本年十二月二十五日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名御璽

大正六年十一月九日 各國務大臣副署

◎改正米檢規則の影響（下）

値開きは當然の結果＝船腹不足と廻米＝効果を將來に期す

某當局者談

[illegible]の他檢査が嚴重になつた爲に商人が檢査に藉口して農民を踏み倒すとか不合格米は道外に搬出する爲には白米にされて白米が粗惡になるとか合格米と不合格米との間に著しい價格の差違が生ずるとかいふ風なことは檢査の程度を高め精確なる檢査を實行する場合には或は已むを得ぬことであるのみならず合格米と不合格米との價格に『開き』を生ずると云ふやうなことは[illegible]

△當然の結果と見るべき

で之が爲に檢査其ものを批難するには往かぬ但し農民が踏み倒されると云ふが如きことは（若し有りとすれば）別途に相當の方法を講じて其の弊害を矯正せなければならぬ事柄である其他改正檢査規則施行の際或る少數の檢査所では檢査員の任命が遲れたとか檢査證印の肉色を遂つたとか[illegible]

△各地に堆積

するとか又は[illegible]依つて不合格米が俄に[illegible]は農民が金融に苦むと云ふ如き事實は大體に於いて萬有り得べからざる所であるのみならず將來朝鮮米豆の聲價を昂むる上に今回の改正が必ず大なる効果を齎すことを疑ふべからざる所であると信ず（完）

◎檢米手數料券

米穀及び大豆檢査手數料券發賣人に關し[illegible]

▲船腹の不足

[illegible]鐵道に於ける[illegible]は汽車の運賃額といふことで[illegible]船運賃が高くなつて殆んど[illegible]時の運賃關係が全く相反する[illegible]てあるから一部の開港地で[illegible]の關係や運賃の爲に或は米[illegible]が多少平年と異なることも[illegible]かも知れぬが之等は單に止むを得[illegible]ぬことであらう檢査の結果に[illegible]は何れも出穀が盛になつて內地[illegible]取引が多額に達する時期が來た[illegible]らば自然種々な形に於て現はれて[illegible]來ることゝ思ふ尤も大阪に於ける[illegible]朝鮮及び內地[illegible]

△穀物商大會

の結果取引上に付て之が改善に關し種々協議が遂げられたのであるが其の中も重なる事項の一たる大阪神戶諸港の檢査の改正が少からず影響をしたるものと思はれる、兎に角想到[illegible]に改正に際して各地に多少の云々を起るのは[illegible]

◎浦塩決濟不能

[illegible]

◎京畿養豚計畫

京畿道現在の養豚數は六萬零二百七十三頭にして內改良種七千三百八十三頭なるが將來五年を期し現在飼養する在來種以上の改良種を增殖せんとする計畫を立て左記の方法に依りて[illegible]行すべしと

[illegible]

◎中村中佐出發

[illegible]

門天白日 [illegible] 柴田丈次郎 瀬々錄郎

[illegible]田總本店

產婦人科 醫學士 二宮亮吉 二宮醫院 京城[illegible]町 電話一二〇一番

資本金壹百萬圓 諸積立金二十七萬餘圓 株式會社 朝鮮商業銀行 京城南大門通一丁目 電話五八番、一六三八、一六四一番 一般銀行業 倉庫業 頭取 白完爀 專務取締役 [illegible] 南大門支店 本町支店 仁川支店 平壤支店 [illegible] 出張所

攝津灘 大塚釀造所吟製 發賣元 京城本町二丁目 前田酒店 電話一三七番 振替口座四二五番

京城發賣元 龜屋商店 京城本町二丁目 電話二七五番

民間製優良品を推薦す 金牌受領 人蔘エキス 朝鮮漢藥製劑所 京城本町三丁目五十一番地

開業 大高自轉車店 各種自轉車販賣並に修繕 京城明治町一丁目

俠艶 有樂館 潜航艇の秘密 自第六編至第十編 後編

壹萬圓 [illegible] 六八 [illegible]

露内閣は何故倒れたか

過激派の反對と勞兵會の跳梁

直接の導火線は勞働者に武器を與へた爲めか

露國に於ける□□□□將軍の謀叛以來革命は稍可能性を帶び來れるが如き[illegible]ケ氏に非ざるも之を[illegible]ケ氏の措方と[illegible]識とは[illegible]

累卵の危きを支へ居たる内閣改造も反對派をして志を逞しうせしむるに至らず殊に近來中産派を提携して過激派を抑へ從來の議會の開會に成りケ氏の執政は[illegible]を得べきかと思はれしが過激派はケ氏の政策に反對するのみならず戰爭繼續の爲めに[illegible]最後の内閣改造に依りて其[illegible]

極めて微弱[illegible]

反感を昂め[illegible]如く最近リガの陥落が本來ならば露都に於て大恐慌を惹起すべき筈なるに殆んど對岸の火災視せるが如き觀ある[illegible]局過激派の主張[illegible]めにあらずやとの疑ひも起らざるにあらざりしが[illegible]表面に現はれたる處のみを以て見れば少しも過激派の主張に對して參酌を加へたるの形迹無く過激派と銘打たれざる勞兵會すらケ氏の關係すら

漸次乖離するの結果遂に[illegible]所の勞兵會が勞働者に武器を配付したるの一事は露都の安寧維持上寛假し難しと爲しケ氏は別報の如く代行議會に於て勞兵會を詰責したるも其効無く此に於てケ氏は終に意を決して内閣を投出したるものにあらざるか節制無き勞働者に對して武器を配付す[illegible]

◆内閣を投出し行方不明の噂ある 露國前首相ケレンスキー氏

□師正王を御命名

東久邇宮稔彦王殿下第一王子の御命名は九日午前十時[illegible]御名を師正王と申上ぐる事となれり（東京電）

小紙幣十日から發行

今月は一千萬圓[illegible]

▽一刻も速か[illegible]

▽一年の日子[illegible]

爆發説には根據がある

阿蘇地震帶の活動著し

▽今村博士發表詳報

[illegible]九州地震に就き今村理學博士の發表に據れば震災豫防調査會に於ける[illegible]霧島、雲仙の火山を連ぬる霧島地震帶は近年漸次終熄する如く見ゆるに反し阿蘇山を主脈とする温泉嶽、九州山、鶴見嶽等より成る阿蘇地震帶は最近活動の兆候著しく肥前温泉嶽附近の如き昨今非常なる活動を起し島原地方は微動頻々たり震源地は熊本に近き海底ならん又た別府の如きも昨今頻繁に鳴動しつゝあり斯くて阿蘇地震帶は將來三四年乃至十年内に破壞性の地震及び火山の爆發あらんと想像さるべき理由あり 熊本の如き明治二十二年に大地震ありたるが來るべき地震は之に稜る程のものなりや否やは豫斷の限りに非ず（東京電話）

活氣に富た満洲の小學生

家庭教育はもう一歩進めたい

朝鮮教育視察團 河合京城日出小學校長談

朝鮮教育家の滿洲視察團は六日の夜奉天から[illegible]九日の朝北行[illegible]

私共の旅行はこれまでの觀察項目と異ひ專ら教育方面の事ばかりを調べて行くので各地で種々な面白い話が生ります、六日撫順を視察した時も同地の學校を詳しく參觀したのは私共が初めてだ[illegible]

△支那人側の[illegible]

△滿洲には[illegible]例へば教室をスチームで暖めるなど京城などで見られぬ點だと感心しました、併し教授器械に於ては殆んど京城と大同小異と思ひます[illegible]

△主に商人[illegible]

△滿洲一致[illegible]

各地支金庫

最近試みた

凡ての努力

紙幣と朝鮮

魚形水雷を拾ふ

獵友會競獵

清會線開通

祝賀準備

偽造犯人捕縛

裁縫の上手

▽急所を覺え第[illegible]

鮮童を手先き

空巣覗ひ

[illegible]

大金鋪 佐藤古物店

純金指環御安致升 責任 保證 友助堂時計舖

闘球盤 紳士も淑女も學生も高尚で面白い室内遊戯ハコレ シノサキ商店 サクラ屋

電話 既設未設電話賣買を親切丁寧迅速に取扱申候 安部電話ブローカー

これからの御馳走には 氣の利いた 湯豆腐 かりかね

新荷着廣告 米國製最新式 スケート シノサキ運動具部 京城本町二丁目

京城案内 化粧品石鹸問屋ハコヽ 伊勢幼号

恩給 西村商會 銃砲火藥獵具 藤本銃砲店 瀧川銃砲店 増戸銃砲店 料理 關靜 面白き電話 殿待

謹賀新禧 朝鮮總督府 江尻良一 三宅勝三郎 鈴木 見野 槌藏

櫻御殿

第六十二回　大阪霞の家主人

安藝の月(三)

活きる筈の三左衛門が死んで、死んだ筈の満之亟が助かるも、不思議な運命と云ふべきであるが、満之亟にして見ると、死なば諸共と約束した詞を反古にした恨みがある。三左衛門が大津の本陣で切腹したとの報告を聞くまでは、少しも早く全快して、一度は戰場に立ちたいと願つたが、大津の陣で腹を切つたと知つてからは、寧そ死のまゝ死にたいと望んだ、義旗で死にたいと願つた三左衛門に、矢も源丸も當らなかつた [illegible]

[illegible] ど與へた

『濟まぬ〳〵、三左衛門は非業に死に、われ等のみが生き殘つて、侍從樣から褒美を戴く、これではいよ〳〵佛に惡まれ』と満之亟は心に思ふ、その色が面に出る [illegible]『明日は御所参見ぢや、お身も後れ [illegible]』

[illegible] じく、満之亟が聞つて居ない今快の歎びが、日ごと〳〵に現はれた、母の銀杏け枯木に花の咲いたのを見た如く歎んで

『これと云ふも正八幡の御加護ぢや、八幡樣がお前の命を惜しう思召して、お命を下されたのぢや、お前の命は神恩と主恩とで堅められて居る、これからは一層忠義を勵んで、二の御恩に報ねばなりませぬぞ』といふ

その心を推量すると、切角こゝまで快くなつた腹へ、刄を突き立てる心にはならなかつた、三左衛門には濟まぬと思ひながら、死に後れた身を起して、正則の見參にも入つた、正則は深く満之亟の忠義振と、萬事に脱漏のない才智を知つて居るので、冷たくなつた灰の間から、温い火を得たほどに満足して、全快の心祝ひに物な [illegible]

[illegible] 御せ [illegible] うでござります、然し、廣島のお城には、毛利の殘兵居殘つて居りまする氣、敗軍の僻みから、如何な大事を引き起さぬに限りませぬ、すれば戰場へ參るも同じ事、それにつき』と満之亟は膝を進めて『斯樣な事を申し上げ、お叱りを蒙るか分りませぬが、明日の御發足、ちと氣にかゝる事がござります』

『異な事を云ふ、什麽ぢや』

『恐れながら明日は往亡日でござります』

『往亡日とは申すと?』

『古の表に、出でゝ再び歸る事無しとござります、申さば此上もない凶日、他の日を選ませられて何うでござります』

『満之亟は深く正則の身を案じて云つた、正則は考へて

『出でゝ再び歸る事無し、出でゝ再び歸る事無し、望外の吉日ぢや、是が非でも打ち立たらで』

『往亡日を吉日と仰せ遊ばしますか』

『それを何故と云へ、毛利殿の手の者、廣島の城に籠つて、もし我等を入れずと云はゞ、命掛けの戰 [illegible]

正則は、笑つて云つた、[illegible] 一徹で、少しの餘裕も無い氣質で、時には洒脱な事を云ふ [illegible] 戲はその上を押して云ふ事もなかつたので默つた

満洲の城をこれが名殘であると [illegible] 入を招いて [illegible] 満之亟も相伴する

京城明治町二ノ三二(元賓業管理局前)
花柳病 皮膚病 須古醫院 電話二一〇二番

用 [illegible] 京染呉服商 たまや 山張店 京城本町 電話二一九六番

京城本町 千代田號印舖

金剛杵(下)

末松 熊彦

霧も長安寺を經て表訓寺に至らんとす途中紅葉花盛りにて且つ名も知れぬ千草の花山野に滿つ、漸く進めば河岸は繪然たる斷崖をなし岩壁處々に淡紫の花を開けたり是より先き長安寺にて丹碧燦然たる殿堂を拜し百川の急湍に沿ふて有黄泉江を渡り明鏡臺下に立つ犯せる罪も多かるに幸か不幸か晴陰ることを頼りなりし爲何等の影を認めず

時雨して今日は山も寒かろう [illegible]

下には紺碧の彩溜々たり上には崖の楓樹深紅の裏を一抹せしが如く一路の棧道岩壁に添ふて架せらる是を深中の絶勝鳴淵潭となす三佛岩白華庵を過ぎて行李を表訓寺に下し正陽寺の展望を貪らんと羊腸たる急阪を登れば名月皎々として一萬二千峰明かなり

隈なく照す秋の夜の月　金剛の露しょよまれたり

月を踏んで表訓寺に歸る夜半山僧の榾燈をわる音頻なり表訓寺を發し摩訶衍庵に至り白雲臺に登りそれより内霧在嶺をなし外山に出づ内霧在嶺の鞍部を越ゆる頃日は西天に沒し金剛の邊に月團々たり

[illegible] り或は山路に横はりて行人の歸 [illegible] す、時に偶ゝ路傍より野 [illegible] として驅走し鍋林中に去る [illegible] 嶺を越ゆれば [illegible] す松林寺に一泊す [illegible] 騷を僥すの勇なく [illegible] 勝を究め得ず河金剛の [illegible] 金剛の連峯を顧れば雲來去して急なり海金剛は高城海岸の一勝景なれども内外金剛に比すれば物の數ならず一部の小縮とも云ふべきか大れより長箭港より船に乘じて元山に向ひたるが豫ての宿題は達したるも其妙風景は我筆の及ぶ處にあらず金剛山は觀たれしかも腦底に腦裡一物の眞を畫し得べきものなし只手に殘りしは此端耗損せる此金剛杖のみ(十一大正六一十記)

新刊紹介

▲探偵雜誌(二ノ一) 列傳帳月本探偵史、悲劇なる前科者の心理、自殺と他殺との鑑別、初めて罪を犯した時、名探偵手記、赤穗義士の探偵術、[illegible] 其他面白き探偵事實記多く [illegible]

▲新東洋(一ノ六) 余が大戰觀、日英兩國 [illegible]

▲經濟資料(三ノ一) 各國の戰時利得稅 [illegible]

▲朝鮮銀行月報(八ノ九) 五十錢 朝鮮銀行

大阪期米

九日後場 ▲當限寄付二十四圓 [illegible] 錢止め二十三圓 [illegible]

大阪小安き入電當地は當中出合前先十九圓二十四錢を同事に寄付きたるも氣乘り薄にて二節二錢と上り三節大阪の安報二十錢を破り [illegible]

九日の一月限 [illegible]

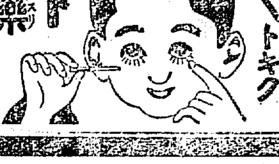
日本專賣有權 のん病七日藥 [illegible] 醫學士 山口 [illegible] 院

流經新藥 レスノリン 月經 [illegible]

ヨードカリウム [illegible]

コノレヤー [illegible]

梅毒 淋病 の 無料相談 [illegible] 東京市本所區向島小梅町 東京藥化學研究所



最新刊 [illegible]

M印 マムコ [illegible]

ミツワ石鹸
MITSUWA SOAP.

The pure soap, from chemical point of view, should dissolve transparently in Alcohol with no sediment at all. Not only MITSUWA SOAP fulfils that requirement but it possesses a delicate and refreshing smell. It is absolutely free from all traces of impurities and contains no "free" Alkali. It makes a soft, creamy lather, which cleans the skin thoroughly, and wears to a last wafer. MITSUWA SOAP gives comfort and satisfaction every moment of its use for toilet, bath, or nursery.

純正の石鹸は亞爾個保兒に透明に溶解し、遊離脂肪なきが故に混濁する事なく、混合物なきが故に些の洗滓をも殘留せず、更にフェノールフタレインを以て、仔細に遊離の亞爾加里を驗するも、毫末の反應を呈する事なき、是を化學上の純石鹸なりとす。皮膚の分泌量多くして而かも粗糙なる本邦人の皮膚、及び漆黑を貴ぶ毛髮の洗滌に用ふべき化粧用石鹸は、啻に化學上の純石鹸たるの故のみを以て、其適否を論ず可らず

○ミツワ石鹸は化學上の純石鹸たるのみならず、なほ左の性狀を具備す。

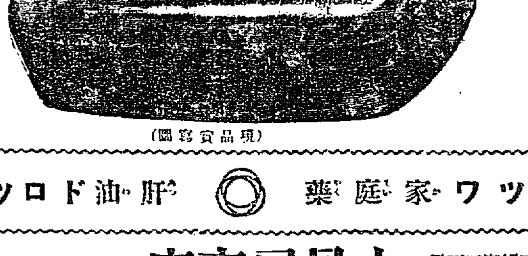
一、原料を精選し、脂肪に、香料に、苟も刺戟を感ずべき虞れあるものを用ひず。

一、溫雅の芳香を有す。

一、細き泡沫を生じ、適度の溶解性を備へて、能く水にも溶解し而かも浴室に用ひて半途に溶け崩るゝが如き憂なし

故に、一般の家庭に於ける、浴室、化粧用として、衛生に叶ひ、經濟に合する、理想的實用品なり。

種	類	
大形	家庭用	定價金貳拾錢
中形	洗面用	定價金拾參錢
小形	旅行用	定價金拾錢
極小形	旅館用	定價金五錢



(現品實寫圖)

ミツワ家庭藥　肝油ドロップス

東京市日本橋區橋町四丁目 振替東京一七〇番
丸見屋商店
電話浪花長特 四三〇番 四四八番 四四九番 四五〇番

滋養強壯 芳香美味
登録商標
○蛇の目印 ポートワイン

[illegible] 優良なる天然純良葡萄酒を基とし有効なる補血強壯劑を配合し [illegible] 甘味比類なき滋養葡萄酒なれば御愛飲の御方は消化を助け食慾を進め血を増し肉を肥し殊に誇るべきは精力を強くする等一般御家庭に於て日常御飲用せらるべき絶好の理想的滋養強壯飲料なり

賣捌所は各國到る所の洋酒、和酒、鑵詰、食料品店及藥舖、雑貨店にあり

【模造品あり登録商標◎蛇の目印及松下善四郎に御注意被下度候】

(現品寫眞)

[illegible] 食料品 鑵詰 直輸出入 家庭藥 雑貨 [illegible]

大阪市東區高麗橋貳丁目
松下善四郎
電話本局 一八五 及一八六 長八二〇
振替貯金口座大阪 一六